

- 紀本俊夫氏を偲んで -

当研究所の監事、紀本俊夫氏は、平成14年5月28日逝去されました。大正10年2月12日生まれ。享年81歳でした。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



経歴

昭和18年	9月	大阪帝国大学理学部物理学科卒業	
		東京理化学研究所仁科研究室に奉職	
昭和20年	9月	大阪ネオン(株)設立	常務取締役
昭和21年	12月	紀本電気(株)設立	常務取締役
昭和28年	11月	紀本電子工業株式会社設立	代表取締役社長
昭和39年	4月	(株)キモトサイン設立	取締役
昭和46年	7月	(株)環境理化学研究所設立	代表取締役社長
平成12年	4月	紀本電子工業株式会社	取締役会長

団体等経歴

財団法人 海洋化学研究所理事
社団法人 大気環境学会評議員
社団法人 日本環境技術協会理事
社団法人 日本計量協会理事
社団法人 日本計量振興協会理事/副会長
大阪府計量協会理事
大阪府計量器工業会理事/副会長

表彰

昭和59年	11月6日	大阪府知事表彰(計量関係表彰)
昭和60年	6月14日	大阪府計量協会表彰
昭和62年	6月11日	大阪府知事表彰(優良企業表彰)
昭和63年	4月20日	科学技術庁長官賞
平成7年	11月4日	社団法人 大気環境学会賞(斉藤潔賞)
平成13年	5月3日	大阪府知事表彰(産業功勞表彰)

弔辞

紀本電子工業株式会社社長 紀本俊夫様には私共の海洋化学研究所の現職監事をしていただいております。去る三月腰痛にて入院され心配いたしました。三週間ほどで御退院なさったと伺い一安心したばかりでありました。然るところ先々週の早朝、突然のご訃報に接し唯々驚愕致しました。このように早くご逝去になろうとは思ひもよらぬことでありますので痛惜の極みであります。喪心よりお悔やみ申し上げます。

省みますと昭和四十七年日本分析化学会が時代に先んじて国際分析化学会議を京都にて開催し私共がその実行委員長を勤めました折、紀本様には京大に長期滞在中の友人フライザー教授（米アリゾナ大学）らと共に委員として格別のご協力を下さり、お蔭様にて会議は大成功を収めた次第でありました。前後してご令息岳志さんが私共（藤永と桑本ら）の研究室に卒業論文生として来られ立派な成果をあげて卒業、父君の社業をお継ぎになって今日に至っております。

その間、昭和五十八年私が財団法人海洋化学研究所の理事長に就任しましたが当時財団は経営が容易ではありませんでした。紀本様には賛助会員また理事として物心両面にわたり格別のご芳情を頂きました。そのお陰で研究所は今日の隆盛を迎えるに至った次第であります。昭和六十一年には環境分析の国際会議を主催できるまでになっておりました。関連して思い出しますのはその国際会議晩餐会にて紀本様がチェロで「浜辺の歌」などを演奏下さり、内外参会者の絶賛をあげたことでもあります。更に後日フライザー教授や私など実行委員の皆様を自宅にお招き下さり、御馳走御慰労下さるなど多大の御芳情を頂いた次第であります。

遡りますが紀本様が会社を設立されました頃のわが国は四日市の公害問題など大気汚染のやかましい時代でありましたが、物理学者としてその汚染物質の連続自動測定器を開発され先駆けて社会的に大変貴重な貢献をされました。なお最近には化学者であるお二人のご令息と共に海洋化学の領域でもその物性の連続測定に取り組みを始められ、世界的に優れた評価が得られておることは周知の通りであります。

このような御発展の矢先でありましただけにこの度の悲報を承りましたことに残念でなりません。

御令室様はじめ御家族御一同様のお悲しみお心落としは如何ばかりかと察するに余りが御座いますが皆様には格別の御自愛をくださいますよう祈り申し上げます。

以上蕪辞ながら紀本俊夫様の御冥福を心からお祈り申し上げ弔辞とさせていただきます。

平成十四年六月十八日

藤永 太一郎